

「新しい歌を主に向かって歌え」(詩編 96 編 1 節)

「恵みに気付けますように」 チャプレン 吉川光太郎

歌はどのようにして生まれるのでしょうか。それは人の感情が動いた時。身の回りや世界の変化に気付いた時。心の動きを詩として書き留め、そこにメロディを合わせる。心が全く動かない時に、新しい歌は生まれません。聖書の世界にもたくさんの歌が出てきます。今月の聖句として取り上げられている「詩編」という聖書には 150 編もの詩が紡がれています。そしてその中では繰り返し「新しい歌を歌え」と語られているのです。聖書における「新しい歌」という言葉には「感謝と喜びに溢れた歌」という意味が込められています。しかし、私たちの生活はいつも感謝と喜びに溢れているわけではありません。時には、新しい歌とはかけ離れた惨めな人生に思えることすらあるのです。そんな時でも新しい歌を歌うことなどできるのでしょうか。

よくよく考えてみますと、私たちの人生に悩みも苦しみも一切存在しない時間などないのかもしれませんが。常に何かが気になっていて、追われているような不安を抱えながら走り続けているのかもしれませんが。しかし、それでも私たちが人生に浮き沈みを感じるとするならば、大事なものはその時その時に私たちが「何を見ているか」ということなのではないでしょうか。

聖書の有名なお話にイエス様が湖の上を歩くという奇跡があります。イエス様の弟子たちが船で湖を渡っている途中、船を大きな嵐が襲います。湖の水が大量に入ってきて、船が沈みそうになったので、戦場は大パニックに陥っていました。するとその時、弟子の一人ペトロが、湖の上を船に向かって近づいてくる白い影に気付きます。彼らはその影を見て「幽霊だ！」と叫び恐れます。そして目を背け、うずくまってしまいます。自分たちの人生の終わりは何と惨めで酷いものだろう！と嘆くのです。しかし、その幽霊の方から声が聞こえてきます。「恐れることはない、私だ」。その声はイエス様の声でした。恐る恐る立ち上がり、その影の方をじっと見つめると、そこに立っておられたのは本当にイエス様でした。イエス様が湖の嵐の上を普通に歩いておられるのを見て、ペトロたちは驚きのあまり先ほどまでの恐怖を忘れてしまいました。そしてイエス様は船に乗り込むと波を叱られ、嵐を沈めてしまったのです。こうして弟子たちの旅路は再び平和を取り戻しました。

私たちは恐ろしいこと、自分にとって都合の悪いことが襲う時、そのことに縛られます。視野が狭くなり、本当に見るべきものを見ることができなくなるのです。そして絶望し、現実逃避に心が傾きます。しかし、私たちを嵐が襲う時、その嵐の中にこそイエス様がいらっしゃいます。あなたを救い出すために近づいておられるのです。聖書は言います。「あなたの日々に、神様の新しい救いの御業が溢れているのだ」と。たとえ気付かなくても、また自分の願いとは違うことが起こっていたとしても、私たちを平和で満たす神様の恵み、困難から助け出す力が私たちから離れることなどないのです。お祈りをする中で、それを知り、感謝と喜びに溢れた歌を紡ぎ出すことができますように。



4月のお知らせ

保育理念	受ける愛 与える愛
	—愛されていることを知り・愛する者となるために—

「 出会い 」

2024年度の歩みが本日より始まりました。当園は、幼稚園児と保育園児と一緒に生活し、一緒に教育を受けられる施設「認定こども園」です。聞きなれない施設名かも知れませんが、従来の福光青葉幼稚園の教育内容と、変わりはありません。認定こども園の保育理念は「受ける愛・与える愛」～愛されていることを知り・愛する者となるために～です。

乳幼児期に十分に愛されて育まれた幼児は、安心して過ごし情緒が安定し、意欲的に行動し、他者を信頼することができると考えています。そして、大切にされ受け入れられた子どもたちは、いずれ他者を愛する者へと変えられていくと信じて保育に携わっています。

「見えないものに目を注ぐ」「分からなさを持ちこたえる」とは、なんと不安定なことでしょう。しかし、子どもたち一人一人の中には、沢山の宝物が詰まっており、いつか芽を出し、茎を伸ばし、花を咲かせる「時」があることを信じて待つものでありたいと願っています。改訂された保育所保育指針・幼稚園教育要領・認定こども園保育教育要領の中での、方向性の一つに読み書き計算のように目に見える力ではなく「目に見えない力」心情・意欲・忍耐などの目に見えない力が重視されているのです。

認定こども園では、遊びや環境を通して子どもたちが、楽しく意欲的に取り組めるように保育計画を立てています。今年度も子ども達にとってよりよい教育環境づくりや、保護者にとって認定こども園を利用しやすい配慮をしていきたいと思っております。行き届かないところがあるかと思いますが、皆様と共に子どもたちの豊かな成長のために励んでまいりたいと考えております。どうぞ、本年も宜しく願い申し上げます。

さて、子どもたちの4月の心もちはどのようなもののでしょうか。進級児は、新しい部屋、新しい先生、新しい出来事に期待を持ちドキドキ、ワクワクしていることでしょう。小さいお友達に「困っていたら、助けてあげる」「トイレ、教えてあげる」「おもちゃ、貸してあげる」「黙っておもちゃを取ろうとしたら、貸してって言うよと教えてあげる」・・・等と年長児としての思いをもっているようです。このような思いに至ったのは、これまで年長者にしてもらっていたからなのでしょう。誰でも初めは、自己中心なのです。それが周りの大人や友だちに、優しくしてもらったり、教えてもらったり、大切にされたりしていくうちに、心が育っていくのです。子どもたちが安心して、喜んで、認定こども園に通園できるように、笑顔で、温かい言葉と行いをもって交わり、学び、経験できるように努めてまいります。自然との出会い、虫たちとの出会い、友だちや先生たちとの出会い、そして、神様との出会いの中で、乳幼児期が愛につつまれて過ごせる一日一日でありますようにと願っております。皆様との出会いを感謝しております。